

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	0572807105
法人名	羽後町
事業所名	グループホーム やまびこ
所在地	秋田県雄勝郡羽後町下仙道字風平97番地1 (電話) 0183-58-7620
評価機関名	財団法人秋田県長寿社会振興財団
所在地	秋田県秋田市御所野下堤5-1-1
訪問調査日	平成21年12月11日

【情報提供票より】 (平成21年 11月 16日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14年 4月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9人	常勤	7人, 非常勤 2人, 常勤換算8.75人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り	
	1階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	26,400円	その他の経費(月額)	光熱水費1日12円	
敷金	有()円	○無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有()円	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		780	円

(4) 利用者の概要 (11月16日現在)

利用者人数	9名	男性	0名	女性	9名
要介護1	3名	要介護2	1名		
要介護3	2名	要介護4	2名		
要介護5	1名	要支援2	名		
年齢	平均 84.7歳	最低	78歳	最高	90歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	町立 羽後病院
---------	---------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは、複合の高齢者ケアセンターに併設されており、自治体が運営している。ケアセンターは地域の高齢者福祉の重要な部分を担い、「地域と一緒に」を理念に掲げ、地域とともに生きること、共に生活することを基本的な考え方としている。そうした中でホームは「喜怒哀楽」を理念とし、ホームの利用者が、自分の家で生活しているように喜怒哀楽を表現できるよう、管理者、職員が一丸となり、ケアを行っているホームである。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回、家族への報告等について、金銭預かり金の受領書の発行について課題があったが、改善されている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	運営者、管理者及び職員は、自己評価や外部評価を実施する意義を理解しており、全職員が課題の改善に向け話し合い、改善に向け取り組み改善を図っている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	地域包括支援センター職員、市町村職員、ケアセンター職員、地域代表者、利用者・家族、管理者等の参加で2カ月に1回開催している。運営推進会議で提供された意見は日々のサービスの質の向上に繋がっている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族への報告は、よく工夫されており、利用者個々のオリジナルの便りを送付して、家族との信頼関係を得るよう工夫されている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	ホームと棟続きとなっているケアセンターとの連携により、地域行事や保育園、小中学校との交流行事、ボランティアの受け入れ等、地域との交流が行われている。また、避難訓練等に地域消防団との連携が図られている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者が自宅で生活しているように、自分らしく感情表現ができるように「喜怒哀楽」を理念とし気兼ねなく感情表現ができるよう理念を作り上げている		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 運営者と管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	運営者、管理者は、理念を職員に実践するよう職員会議等で説明し、日々の実践に取り組んでいる。		今後は、事業計画等に理念を明文化し、理念の実現に向け引き続き取り組むよう期待する。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業所が孤立することなく、家族会の開催、地区のお祭りに出かけたり、床屋やお菓子の提供ボランティア等を受け入れたり、地元の人々との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者及び管理者は、自己評価及び外部評価の意義をよく理解し、評価を活かして改善に努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度開催される運営推進会議でホームの取組みや、日々の生活状況を報告し、会議で出された意見を持ち帰りサービスの質の向上に活かすように努めている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホームは、自治体の運営であり併設されているケアセンターと密接にかかわって、連携をとりながらサービス向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	年4回ホーム便りを発行し、入居者一人ひとりのオリジナルの便りを発行している。その際には、健康状態や暮らしぶり、金銭の収支等を報告し、個々の利用者に合わせた報告を行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関入口に、苦情受付窓口の取り決めについて掲示があり、家族や外部の意見を表す機会を設けている。	○	家族や広く外部の人が意見を言い表せることができるよう、意見箱の設置及び苦情受付の流れ等、分かりやすい表記を期待する。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	人事異動による入居者の影響を考慮し、必要最小限にとどめている。また、ホームが併設されているケアセンターの一面にあり、行事等を一緒に行うなど利用者及び職員が顔見知りの関係を築き、職員の異動等による影響への配慮がされている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、運営者自身や管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は、事業所職員を段階的に育成することに力を入れ、研修会の参加について適時行っている。また、職員会議等を通じ、復命研修を行い研修の内容を職員全体で共有できるよう努めている。		職員を段階的に育成するために事業計画等に研修計画を載せるなどして、確実に職員を育てる取り組みを行うよう期待する。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、運営者自身や管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ホームが山間部にあり、同業者との交流が難しい面があるものの、地域のグループホーム連絡協議会等に参加した職員からの情報を活かしサービスの質の向上に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう本人又は家族等と相談しながら工夫している	本人がホームの雰囲気に馴染めるよう、家族や利用者本人により、生活状況や要望、意見をよく聞き、本人の希望に添えるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の希望により、畑仕事や食事の準備等、利用者とは話をもちながら一緒に過ごし、喜怒哀楽を表現できるよう配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常会話により本人の希望や意向の把握に努めている。また、家族の面会時にも利用者の生活歴などを聴取し、利用者の思いや希望に添えるよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員で課題やケアの在り方等についてよく話し合い、介護計画を作成、その後家族に同意を得ている。	○	利用者本位の介護計画を作成するために、出来あがった計画に同意を得るのではなく、本人・家族と話し合いそれぞれの意見を反映した介護計画の作成を期待する。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間に応じた見直しを行っている。また、現状に即した対応は柔軟にされている。		利用者に変化が生じた場合の対応は出来ているが、計画の変更の際も、本人・家族との話し合いを今まで以上に大事にすることで、よりよい介護計画を作成しサービスの向上に繋げる事を期待する。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	事業所が複合高齢者ケアセンターの一画にあり、事業所の多機能性を生かすとともに、他の事業所との連携により柔軟な支援を行うよう努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時、本人及び家族の希望を大切にし、利用者それぞれの馴染みのかかりつけ医から適切な医療を受けられるよう支援している。また、いつでも柔軟に対応してくれるよう医療機関との協力体制ができている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	職員、家族、かかりつけ医などで話し合い、利用者が長年ホームで生活してきた「本人の意向を尊重した対応をする」方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	記録や個人情報の取り扱いに関しては、全職員が細心の注意を払い対応している。また、個々の利用者の喜怒哀楽に寄り添い、プライバシーの確保を保ちつつ誇りを傷つけることのないよう配慮がされている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の生活にその人らしい喜怒哀楽を尊重し、ともに寄り添うように支援することにより、その人らしい暮らしができるよう支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を楽しむことができるよう、利用者個々の力量に合わせ一緒に準備や片づけを行うことにより、楽しい食事となるよう努めている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日健康状態を把握し、利用者の希望に応じて入浴できるよう工夫している。		
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	畑の作業や手芸等、利用者の得意とすることを引き出し、一緒に寄り添うことにより、喜怒哀楽が表現できるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	週2回の食材の買い物や利用者の希望により理容や美容院等の外出に出かけるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに努めている	夜間以外は鍵をかけずに、自由に出入りができるようにしている。散歩等には職員が付き添うなど、鍵の掛けないケアに努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	同じ敷地内の複合高齢者ケアセンターで行っている地域消防団との連携による避難訓練等に参加し、災害時に対応できるように訓練を行っている。		引き続き、避難口等の整理整頓に配慮し、災害対策に万全を期すよう期待する。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量や水分量等は、一人ひとりの状況を記録している。栄養バランス等については、月1回の併設施設の栄養士の指導を受け季節感のある食事になるよう配慮がなされている。		今後、栄養士の指導を記録として残す事を期待する。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や臭いや光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は、不快な音や臭いはなく、装飾や採光は配慮があり居心地のよい空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、使い慣れたものや家族の写真等の好みのものを飾るなど、本人が居心地の良く過ごせるよう工夫している。		

※ は、重点項目。